

IT時事ネタキーワード「これが気になる！」(第140回)

各地で輸送用のロボットやドローンが始動。今後の動向は？

2024.04.19



ドローンやロボットなどの無人機械で荷物を運ぶ実証実験や、実際に僻地や被災地などに物資をドローンで供給するなどの報道をよく耳にする。少子高齢化による慢性的な人手不足に加え、「物流の2024年問題」を抱える今、一刻も早い無人配送の実現が課題解決につながる、とも思えるが、自動配送ロボットや配送ドローンが普通に稼働する光景はまだ目にしたことがない。

各分野でロボットやドローン活用などを使った輸送・配送がいよいよ実用化？！

そんな中「Uber Eatsのロボット配達が始動」というニュースが入ってきた。さらに、「日本郵便が物流専用ドローンを始動」という報道もあり、「機械配送がいよいよ実用化か！」とわくわくした。興味をひいたのが筆者もよく利用する「Uber Eats」。ニュースリリースには「Uber Eatsがロボットデリバリーサービスを提供するのは、米国に続き世界2カ国目となります。Cartkenが設計し、AI技術を駆使したデリバリーロボットが、三菱電機による日本仕様への適合と導入・運用により、Uber Eatsアプリ上で展開されます」とある。アプリで食事を頼むと、四角いロボットが届けてくれる。受け取るとロボットはすーっと帰っていく。SF映画のような光景だ。

公道ではないが、最近ではAIを使った「自律搬送ロボット」が工場や店舗などで活躍する場面も多い。昨年書いた「注目集まる家庭用実用ロ

ボット。AIの進化でより実用的な段階

に」でとりあげた、ワゴンを動かして運ぶロボット「[Kachaka](#)」において、法人向けモデル「[Kachaka Pro](#)」は、オフィスや工場、歯科、薬局、飲食店などで活躍しているという。

それぞれの進捗は？ 人手不足や物流の2024年問題などの背景も… 続きを読む